

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2020年3月10日

事業所名：「ゼノ」にぼと園 保護者数(児童数)65人 配布数62人 回収数 50人 割合80.6%

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	36	10	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 活動するには狭く感じる部屋がある 園舎がいびつであると感じる 行事で全員が集まる部屋がもう少し大きいとよい(2) もう少しゆとりがほしい 雨の日は狭く感じる 	<p>○建物基準などは基準を十分満たしていますが、築42年経ち老朽化していること、また難聴幼児通園施設の基準でスタートし、定員や制度の変更に伴い増築、改築を重ねているため、複雑な建物構造になっています。子どもの年齢や状態、療育形態も様々で、日替わりの部屋使用になります。子どもたちにとって、安心して分かりやすく楽しく活動できる環境づくりに努めます。保護者の皆様のご理解をお願いします。</p>
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	34	9	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 先生方にはとても感謝している。仕事量の多さを心配している 専門性には満足しているが、各グループにもう1人ずつ先生が配置されると先生もゆとりをもって指導ができる 職員が足りていないと感じることがある(3) もう一人先生がいてくださったらと思う場面がある(トラブルの時)が、人材確保や人件費を考えると難しいと思う 人員不足で先生が大変だろうと思う 給食後の自由遊びで手が足りているのか不安 単独の子が多かったり話し合いの時に足りていないと感じる 	
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	27	18	2	2	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリー化にはなっていない(2) バリアフリー化は難しいと感じる。 広いので慣れるまでは部屋を探すのが大変。 建物が古い(5) 施設が古くなってきている中でもいろいろ工夫されている。他のセンターが改修されてきている中で新しい利用者からは見劣りがするかもしれない。 自転車に乗ってはいけないう時間は、先生がカーテンを閉めたり丁寧に声掛けをしている。 砂場のおもちゃを片づける場所が分かりにくく分類しにくい。 	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	32	13	3		<ul style="list-style-type: none"> 保護者が5分でも掃除をして帰るなど、無理のない範囲でてもよいのではない 清潔にさせていただいても気温や気候の影響からか、きしゃの部屋のトイレが匂って子どもが夏場トイレに行けなかった 老朽化で仕方ないかもしれないが、傷みが激しいところもあり、慣れるのに時間がかかった 老朽化が心配。もっと保護者に支援をもとめてもいいのではない 	
適切な支援の提供	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画iiが作成されているか	47	2	0	0		<p>○「ゼノ」にぼと園では、お子さんと保護者の方に一緒に通ってきていただき、障がいや発達の状態に合わせ、集団療育と個別療育を行います。楽しい遊びや体験を通して発達の土台の力を育て、意欲的で安定した生活が送れるように取り組んでいます。</p>
	⑥ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	43	2	0	4		<p><発達支援> 難聴のお子さんに対しては、聴力状態の把握や補聴器・人工内耳の装用・調整・聴覚活用をすすめ、またすべてのお子さんに対して、人と関わる力、経験や気持ちに根ざしたイメージやことば・コミュニケーションの力を育てるように取り組んでいます。</p> <p><家族支援> 親子通園、保護者懇談会などを通して、我が子を理解し子育てに元気と見通しを持てるように支援したいと取り組んでいます。</p> <p><地域支援> また、保育所や幼稚園・子ども園などと併行通園されている方は、園との連携を通して、安定した生活が送れるように支援しています。</p>
	⑦ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	44	3	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や子どものことを考えて計画してくれている(3) 	

⑧	活動プログラムiiiが固定化しないよう工夫されているか	46	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・固定していると感じることもあるが、意見は聞き入れてくれてありがたい ・集団での活動で限界がある中、とても工夫されている 	<p>○これらガイドラインに沿った内容で児童発達支援計画を立てていますが、一人ひとりへのより丁寧な説明を心掛けて行くよう努めます。</p> <p>○支援内容については、概ね保護者のみなさんのご理解を得ていると思われませんが、さらに丁寧な説明とニーズの把握に努めると共に、研修や検討を重ね、療育の質を向上させるよう努めます。</p>
	⑨ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	32	4	7	5	<ul style="list-style-type: none"> ・療育の中で経験したことがない ・初詣で保育所の子どもたちとばったり会うくらい ・西幼稚園との交流はあったが、他のところはない ・3歳児だけはない 	
保護者への説明等	⑩ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	48	0	0	1		<p>○入園時(入園説明会)及び毎年度初めの入園式の時に説明しています。ご意見や疑問がありましたら、いつでもその都度、丁寧に説明させていただくように努めます。</p>
	⑪ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	43	3	0	2		<p>○前期と後期に分けて、個別に説明や確認を行っています。より丁寧な説明を行うよう努めます。</p>
	⑫ 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われているか	41	5	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングされている感はなく、自然と習得できていると感じる(いい意味で) 	<p>○集団療育と個別療育を行います。親子で通っていただき、親子で一緒に遊び、活動し、活動終了後には保護者懇談の時間を必ず持ち、活動の意味や子どもの様子について話し合います。</p> <p>共に考えあったり、共有したりすることを通して、保護者が、我が子を理解し子育てに元気と見通しを持って仲間と共に歩んでいけるように支援したいと考えています。</p>
	⑬ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	45	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・とても助かっている ・ノートなども活用して課題をよく理解してくれている ・最後の話し合いの中で共通理解ができる 	<p>○日々の親子通園、保護者懇談に加えて、学習会や保護者教室、又前期・後期の保護者とのまとめの会などを行い、子どもの状態課題などについて共通理解し、とりくみをすすめていきます。</p>
	⑭ 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	48	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回してくれている 	<p>○保護者とは、直接対話、電話、連絡帳などの方法で意思疎通や情報伝達を図っています。また、緊急時などの情報伝達は、メールでの一斉送信も行います。</p>
	⑮ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	43	3	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・開催されているが、託児がない、休日などで参加しづらいことが多い 	<p>○保護者教室やこぼと会などの保育(託児)は、必要があれば、可能な限り行っています。</p>
	⑯ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	44	2	1	1		<p>○こぼと会(こぼと園保護者会)、療育を守る親の会など、積極的に活動していただいていることに感謝します。その中で、利用者の声などご意見もいただいております。よりよいこぼと園であるように努めてまいります。</p> <p>あわせて、今回の事業所の保護者評価、自己評価をもとに、園のあり方や支援の在り方を見直し、よりよいものにしたいと思っております。</p>
	⑰ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	45	2	0	1		
	⑱ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	38	6	0	5	<ul style="list-style-type: none"> ・会報が少なくなったりHPが更新されていなかったり残念 	<p>○社会福祉法人「ゼノ」少年牧場の機関紙「ふれあい」や「こぼと園だより」を配布しています。あわせて月々の予定表、行事や研修会などのお知らせを配布しています。</p> <p>○「ゼノ」少年牧場のホームページがあります。できるだけ更新するよう努めます。</p>

非常時等の対応	⑱	個人情報の取扱いに十分注意されているか	37	7	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・他と比べるとゆるいのかな。職業や家族構成、住居など他人に話されるのを嫌がる人もいると思う。 	<p>○個人情報の取り扱いについては、入園時に同意していただいています。</p> <p>○写真や動画などについては、入園時及び年度初めの入園式の時に、しおり(重要事項説明書)で説明しています。療育中に写真や動画を撮ることは、療育に差し支えますのでご遠慮ください。また、撮ったものをラインやブログに載せることも、個人情報保護のため控えてください。</p> <p>○お互いを知り合い理解し合うことと、個人情報の保護とのバランスをとりながら保護者支援をしていくことに努めたいと思います。</p>
	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	25	13	3	10	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯と感染のマニュアルは知らない ・先生はされているかもしれないが、子どもたちの訓練はない ・以前通っていた療育園では月1回あったので、年数回はしてもらえるとよい 	<p>○防災対策は、毎月の避難訓練と建物の安全管理(火災報知機の点検、消火器の設置、危険箇所の把握と対応など)に努めています。避難訓練については、毎日通園でない子どもが多いため、すべての子どもに経験できるように計画をたてて実施します。</p> <p>○緊急時対応のマニュアルなどについては、策定していますが、お知らせできていません。改善に努めます。</p>
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	24	13	1	9	<ul style="list-style-type: none"> ・最近では水害が増えているので、前が川であり水害時の訓練も考えてほしい ・避難訓練が指導日と重ならないと経験できない 	<p>○地震や津波に対する避難訓練や対応については、早急に訓練を実施します。</p> <p>○防犯カメラの設置はなく、防犯訓練も行えていません。対応を検討したいと思います。</p> <p>○全国いたるところで様々な災害が生じている状況もふまえ、緊急時の気象情報や避難情報の把握と対応(保護者との連絡や関係機関との連携)を図り、子どもたち・保護者の皆さんの安全を守るよう努めます。</p> <p>○感染症についての情報を適時お知らせするように努めます。</p>
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	46	2	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しみにしている(4) ・病気でも行きたがるほど楽しみにしている 	○子どもにも保護者の皆さんにも満足してもらえるよう、引き続き努力していきます。
	㉓	事業所の支援に満足しているか	45	4	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも頼りにしている ・親子ともども丁寧にかかわっていただいで満足している 	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2020年3月10日

事業所名: 「ゼノ」にぱと園 職員数26人 配布数23人 回収数22人 割合95.6%

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	10	11	・法令(元難聴幼児通園施設)を遵守した建物である。 ・部門(難聴・発達・相談)や療育形態(集団療育・個別療育・親子通園・毎日・併行など)などが複雑なので、ケースの状態や療育内容に合わせて、訓練室や検査室等の使用を調整している。	○建物基準などは法令を遵守しているが、築42年経ち老朽化していること、また難聴幼児通園施設の基準でスタートし、定員や制度の変更に伴い増築、改築を重ねているため、複雑な建物構造になっている。死角もあり、見通しの持ちにくい建物構造なので、安全性に気を付け、できる限り、子どもにとって見通しが持ちやすいように手掛かりや働きかけを行い、整理され、安心して分かりやすく楽しく活動できる環境づくりに努める。
	② 職員の配置数は適切であるか。	8	12	・職員配置基準は十分満たしている。 ・職員の役割分担をしながら、子どもの療育の質や安全が確保されるように配置している。	○部門(難聴・発達・相談)や療育形態(集団療育・個別療育・親子通園・毎日・併行など)、年齢(0歳～就学前)や状態、療育内容などが複雑なので、職員同士事前の打ち合わせをし、訓練室や検査室等の使用を調整している。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	3	16	・死角もあり、見通しの持ちにくい建物構造なので、安全性に気を付け、できる限り、子どもにとって見通しが持ちやすいように手掛かりや働きかけを行い、整理され、安心して分かりやすく楽しく活動できる環境づくりに努めている。	○職員の配置基準は大きく上回っているが、難聴・発達・相談など、部門も療育形態も様々であるため、安全で質の高い支援を行うには、職員が基準以上に必要である。また、親子通園であり保護者との懇談を大切にしているが、保護者懇談の時間帯に十分な保育体制をとることが課題である。職員体制整備・充実のための意見を関係団体の協議の場などに挙げていく必要がある。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	15	・聴覚障害児に対応した、パトライトつき非常ベル、二重窓、マジックミラーなどを設置している。 ・バリアフリーには対応できていない。	○危険箇所気づいたらすぐに対応し、清潔で心地よい環境であるよう、保護者の協力も仰ぎながら努力する。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	15	4	・前期と後期に分けて、職員会議、部門会議、ケース会議などを行い、目標設定と振り返りを行っている。 ・職員の業務量が多く手一杯の状態が続いているため、「働き方改革検討委員会」を立ち上げ、現状の確認や改善に向けての検討を行っている。	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	20	0	・親子通園のため、日常的に保護者との直接の懇談を行っている。あわせて、連絡帳を通して意向や思いの把握、保護者会活動を通して意見等の集約などを行い、問題を整理し、改善に向けてとりくんでいる。	○職員会議等の場で全体の状況把握や意見の集約を図る、「働き方改革検討委員会」の場で課題の整理と改善点の検討をすることを定期的の実施し、職員全体で業務改善にとりくむ。 ○引き続き、保護者との共通理解に努めながら、職員全体での共通理解、認識を図り、具体的な業務改善に向けて努力する。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	18	3	・昨年度の評価を踏まえ、「重要事項説明書」に反映させたり、職員間で共有したりした点がある。昨年度の結果はホームページに公開し、施設内にも掲示している	○保護者評価、事業所の自己評価に基づき、今後の改善に生かしていく。 ○内部研修・外部研修などを計画的に行い、職員の学ぶ意欲を高め、職員の専門性や人間性を高めるように努める。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	15	3	・法人として第三者評価を実施している事業所はあるが、当園は未だ行っていない。	
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	19	2	・必要な研修、希望する研修、自主研修などに参加しやすいよう、勤務体制等を配慮しているが、仕事の量が多く、研修の機会が少なくなっている。	

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	20	0	・前期と後期に分けて、アセスメントやニーズ分析をした上で児童発達支援計画を立てている。	<p>○〔ゼノ〕こぼと園では、ガイドラインに沿った支援を次のように行っているが、さらに充実させるように努める。</p> <p>①親子通園で障がいや発達の状態に合わせ、集団療育と個別療育を行う。楽しい遊びや体験を通して発達の土台の力を育て、意欲的で安定した生活が送れるように取り組んでいる。</p> <p>難聴児に対しては、聴力状態の把握や補聴器・人工内耳の装用・調整・聴覚活用をすすめ、人と関わる力、経験や気持ちに根ざしたイメージやことば・コミュニケーションの力が育つように取り組んでいる。(発達支援)</p> <p>②親子通園、保護者懇談会などを通して、我が子を理解し子育てに元気と見通しが持てるように支援したいととりにくんでいる。(家族支援)</p> <p>③関係機関との連携を行う。特に保育所や幼稚園・こども園などと併行通園している場合は、園との連携を通して、安定した生活が送れるように支援している。(地域支援・保育所等訪問支援)</p> <p>○子どもに合わせた適切な支援を行うために努力をしているが、部門の増加、ニーズの多様化による職員の役割の多重化、複雑化などのため、職員は手いっぱい状況である。「働き方改革検討委員会」などでの検討を踏まえて、職員全体で業務改善にとり組み、よりよい支援に結びつける努力が必要である。</p> <p>○活動プログラムや活動内容は、子どもの状態に合わせ適切に行われていると思われるが、やや経験主義に陥ったり、目的や意図があいまいになったりすることも見られ、研修や検討を重ね、療育の質を向上させるよう努める必要がある。</p>
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	14	4	・日常的に、生活や遊びの中で子どもの状態の把握、発達検査や聴力検査等での客観的な状態の把握を行い、支援計画を作成している ・研修等により、子どもの発達やきこえのとらえ方等を共通に理解できるように努めている。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17	1	・児童発達支援ガイドライン3つの支援内容に基づき、さらに園の長年の積み重ねと研修を通して、外部の情報もとり入れながら、子どもの支援内容を設定している。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	19	0	・支援計画をもとにしながら、日々の生活や遊びの中で子どもの状態を把握し、また発達検査や聴力検査等で客観的な状態の把握を行い、子どもに合わせた支援を柔軟に展開している。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	18	1	・部門会議、グループ担当者会議などで行う。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	19	0	・日々の生活や遊びの中で子どもの状態を把握し、また発達検査や聴力検査等で客観的な状態の把握を行い、子どもにあわせた支援を行っている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか。	19	0	・集団療育、個別療育を組み合わせで行っている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	19	1	・朝会時に、支援体制(集団・個別・相談など)、活動内容、職員配置、役割分担などについて確認している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	13	8	・終礼時に、1日の報告を行う。 ・具体的な支援内容の振り返りについては、グループごとに少しの時間でも行うように努力はしているが、時間の確保が難しいことが多い。問題や困難さや気づきがあった場合には、適宜確認・検討する。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	20	0	・日々の療育記録は書いているが、それを職員で共有し、支援に活かすことが課題である。勤務時間内に記録を書くための時間の使い方や、職員の役割分担を検討していく	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか。	18	2	・前期と後期に分けて、モニタリングを行い見直している。		

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	18	1	・相談支援事業所が併設されており、子どもの情報を共有しながら行っている。 ・会議が外部で開かれる時は、直接担当者が参加する。	
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか。	18	1	・入園時に、必要に応じて地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携を図っている。 ・子どもの状態に応じて、特に配慮を要する子どもに対して、必要に応じて行っている。	
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか。	11	5	・子どもの状態に応じて、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携を行っているが、保護者を間にしての情報の共有を行うことが多い。	○子どもの状態に応じて、特に配慮を要する子どもとその家族に対して、必要に応じて関係機関(母子保健、ネウボウ課、障がい福祉課、保育課、学びづくり課、基幹相談支援センター、こども発達支援センター、子ども家庭センターなど)と連携し支援を行い、子どものすこやかな育ちを支えることができるように努める。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えているか。	9	6	・医療との連携をとるように意識しているが、十分な連絡体制を整えるには至っていない場合が多い。	○医療的ケア児に関しての関係機関との連携を強くするよう努め、主治医や協力医療機関との連絡体制を整備する。
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19	0	・併行通園に移行時、また移行後も、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、見学・相互の訪問・連携会議・研修など、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。(移行後は保育所等訪問支援で実施)	○医療的ケアが必要でない子どもについても、医療機関との連携、情報共有に努める。 ○併行通園している保育所、幼稚園、こども園などとの連携支援を充実させる。そのために、日常的な電話や連絡帳での連携に加えて、保育所等訪問支援事業を行うこと、療育懇談会(年1回、グループごと、公開療育と懇談会)や研修会(療育研修会・聴覚障害研修会など)を開催することなどを通して、充実を図る。
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18	0	・移行時、また移行後も、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、見学・相互の訪問・連携会議・研修など、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	○移行支援、他機関との交流や情報共有、研修などについては、継続して行う。
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。	17	2	・協議会(広島県東部幼児通園機関協議会、福山地域児童発達支援事業連絡協議会など)に参画し、研修会や実践交流会、公開療育など、積極的に参加している。	※利用されている園児数が多いので、計画性をもって行うように努める。
	㉗	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	15	3	・併行通園が基本であるため、障がいのない子どもとの交流は日常的にある。 ・難聴児の通っている西幼稚園とは、年に1回年長児がこばと園に訪問し、交流する機会を設けている。	
	㉘	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	10	7	・市の障がい者総合支援協議会の発達支援部会や相談支援部会、療育支援事業担当者会議などに委員が参加している。	
	㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	19	0	・親子通園であり、活動のあとに保護者との懇談会を持ち、日常的に子どもの状態や課題、関わり方などについて確認しあい、子育ての相談に応じている。	○保護者への支援は、保護者との信頼関係を築くことを大切にしながら、親子通園、保護者懇談会、連絡帳の交換などの日常的な支援と、年数回の保護者教室や学習会などの学びの場を設け行っていく。そのために、職員の研修や事例検討を行い、より質の高い支援を行っていただけるよう努力する。
	㉚	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか。	17	1	・特定のプログラムに基づいているわけではないが、親子通園、保護者懇談会に於いて、毎回子どもの見方、かかわり方について話し合い、学びあい、支援している。連絡帳の交換も行う。また、年数回の保護者教室や学習会などを行い、学びの場を設けている。	

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	17	2	・入園時(契約時)と年1回(年度初め)、行っている。	<p>○契約や、児童発達支援計画などの説明や同意に関して、児童発達支援ガイドラインで使われていることばに慣れておらず理解されにくい面がある。昨年度の評価を踏まえて改善した点もあるが、引き続きこれらの語句を使用し丁寧に説明し、同意を得るように努める。</p> <p>○保護者とは、直接対話、電話、連絡帳などの方法で意思疎通や情報伝達を図る。また、緊急時などの情報伝達は、メールでの一斉送信で行う。</p> <p>○こばと会(こばと園保護者会)、療育を守る親の会などへの協力と連携を深める。</p> <p>○こばと会や保護者の意見をしっかり受けとめ、あわせて、今回の事業所の保護者評価、自己評価をもとに、園のあり方や支援の在り方を見直し、よりよいものになるよう努める。</p> <p>○日常的な保護者への説明や相談に関して、さらに保護者が相談しやすくなるように、職員との信頼関係を深め、温かく専門性を持った支援を行っていけるよう努める。</p>
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の供給すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	18	1	・入園時、前期と後期に行っているが、「児童発達支援ガイドライン」や契約に関わることばに職員も保護者も使い慣れておらず、理解されにくいところがあったので、意識的に確認している。	
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	19	0	・親子通園であり、活動のあとに保護者との懇談会を持ち、日常的に子どもの状態や課題、関わり方などについて確認しあい、悩みや相談に応じている。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	19	0	・こばと会(保護者会)、療育を守る親の会など、積極的に活動されており、支援している。日常的なグループ療育に加え、年数回の全体行事(遠足、運動会、夏祭りなど)、部門行事(園外行事)などへの参加、研修会の参加などを通して、関係が深まっている。	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19	0	・日常的に、相談に応じるように努めている。 ・苦情や申し入れに関しては、苦情解決窓口を設け、第三者委員も紹介している。が、実際は日常的に保護者から担当職員に相談があり、迅速に対応するよう心掛けている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	19	0	・社会福祉法人「ゼノ」少年牧場の機関紙「ふれあい」や「こばと園だより」を配布。あわせての月々の予定表、行事や研修会などの案内を配布している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか。	16	3	・個人情報の取り扱いについては、入園時に「個人情報使用同意書」に基づき同意していただいている。 ・写真、動画などについては、入園時及び年度初めの入園式の時に、しおり(重要事項説明書)で説明している。 ・お互いを知り合い理解し合うことと、個人情報の保護とのバランスをとるように留意しながら保護者支援をしている。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	19	0	・電話、連絡帳、直接対話などいろいろな手段で意思疎通を図っている。聴覚障害のある保護者に対しては、手話、筆談などを使い、配慮している。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	3	・近隣に夏祭り、とんどの案内をしている。 ・地域の企業やライオンズがボランティアで夏祭りの手伝いや清掃活動などをしてくださっている。	

非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19	1	・緊急時対応マニュアルを作成しており、年度初めに、また必要に応じて職員・保護者で確認しているが、より具体的な発生を想定した訓練をする必要がある。	○想定される緊急時等のマニュアルを漏れないように策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施するように努める。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	19	1	・火災の避難訓練を毎月実施している。通報訓練、消火訓練は年1回実施している。	○毎月の避難訓練と建物の安全管理は行っているが、毎日通園でない子どもが多い中、避難訓練をすべての子どもが経験できるように計画立てる。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	17	2	・年度初めに調査票で健康状態を把握し、一覧表を作り職員間で共有している。年度途中で変化のあった場合は更新する。	○地震・津波を想定した避難訓練を計画し実施する。
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	20	0	・指示書を提出してもらい、栄養士の指導を受けて対応している。	○危険箇所に気づいたらすぐに対応するようにはしているが、十分とは言えず、マニュアル化が必要である。
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	8	11	・ヒヤリハットは日々の終礼時に確認共有し、具体的な対策を検討しているが、「ヒヤリハット」ということばに慣れていないため今後は使うようにする。	○全国いたるところで様々な災害が生じている状況もふまえ、緊急時の気象情報や避難情報の把握と対応(保護者との連絡や関係機関との連携)を図り、皆の安全を守るよう努める。
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	4	・虐待防止啓発の研修会に参加し、伝達研修を行っている。	○各地で悲惨な虐待事件が報告される中で、虐待や身体拘束に関する研修を行い、日常に引き付けて考え、対処できるように取り組む。
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14	4	・身体拘束・行動制限のガイドラインを作成し、職員研修を行い、保護者より同意書をいただいた。	○防犯カメラの設置はなく、防犯訓練も行っていない。対応を検討する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。